NO．２３　ボンファイヤー（BF）

１　ねらい

・自然の懐の中で火を囲みながら仲間と楽しく活動したり，静かに過ごしたりすることで，より深い思い出にする。

２　活動の計画

（１）活動期間	４月～１１月	
（２）所要時間	０．５～１時間	
（３）活動場所	キャンプファイヤー場「カシオペヤ・おおぐま」，屋根付広場	
（４）準備物	〔自然ふれあい館〕	〔利用団体〕
	・足つきグレーチングの台（ロストル） 　１グループ２台 ・薪割り道具　１組 ・消火用バケツ　数個 ・灰入れ缶　１個 ・ほうき，ちりとり，十能 ・薪：有料（様式７参照）	・新聞紙 ・マッチなどの火起こし道具 ・懐中電灯

３　活動について

（１）主な係（例）

・営火係：消火，後始末など火の管理をします
・準備係：会場準備をします
・進行係：会の進行をします

（２）営火係の言葉

・点火の言葉（例）

①泉岳自然ふれあい館のキャンプファイヤー場において，私たちは，今，まさにつどいの火を燃やそうとしています。暗闇の中に燃える炎，それは私たちの望みであり，友情であります。そして愛の力でもあります。私たちは，この神秘の火を心の奥底におさめ，明日への新しい力として社会のために燃やし続けましょう。

②光と熱のもとになる炎は，私たちの頬を染め，私たちの友情のごとく激しく燃え上がろうとしています。私たちのきずなをより強くするため，私たちの胸の中にここでの活動の思い出を深くきざみつけましょう。今日の炎がいつまでも私たちの心の中で大きく燃え続けることを祈って。

・誓いの言葉（例）

①私たちは，この自然ふれあい館で得た心と心の結び付きを生涯大切にすることを誓います。

②私たちは，ここでの活動を通じて，健全な心身をつくり，自立・協同の精神を体得するため，努力することを誓います。

③私たちは，自然を友に心身をたくましくきたえ，社会の一員としてがんばることを誓います。

（３）活動準備と片付け

・利用する薪や道具は倉庫前のリヤカーに準備してあります。倉庫前から運び出し，翌朝同じ場所に返してください。

・必ずロストルを使用し，活動後の消火を確実に行ってください。

・薪はできるだけ完全燃焼させ，灰だけ残るようにします。

・終了後の消火は水道のホースを使い，確実に行ってください。

※消火器は緊急時の物なので，通常の消火では絶対に使用しないでください。

・屋根付き広場で実施の際は，消火用バケツを使用して外トイレの水で消火してください。

・借用した物品は元の場所に返却してください。

（４）その他

・目的，参加人数によって，時間やプログラムを自由に組むことができます。

4　展開例

区　分	備　考
準備・説明 （10 分）	（1）明るいうちにロストルや薪，ベンチの準備をします （2）準備係は機材などを準備します
活動 （40 分）	（1）静かに入場し，井桁を囲んで円陣を作り着席します （2）夜の歌 ・「遠き山に日は落ちて」をハミングします （3）営火長の話 ・キャンプの精神，営火の意義，友情，団結，協力などについて話をします （4）点火 ・火起こしや火打ち棒，マッチ 1 本からの着火などの演出を取り入れても良いです （5）分火 ・複数グループで行うときも演出で行っても良いです （6）営火 ・種火が薪に燃え移るのを静かに見守り，ゆらめく炎の美しさを楽しみます （7）交流 ・自己紹介や自然にまつわる話をしながらしばし穏やかな時間を共有します ・薪が燃え残らないよう薪を自由に動かしながら完全燃焼をめざします ・「No.28 焼きマシュマロ」を取り入れても良いです（有料 1 週間前までに注文） （8）閉会 ・感謝の気持ち，終わりのあいさつを述べます ※わかれの歌をハミングしながら述べてもよいです （9）退場 ・余韻を楽しみながらグループごとに静かに退場します
まとめ・片付け （10 分）	（1）後片付け ・完全燃焼をしたグループから協力して後片付けをします（火傷に注意する） （2）火気点検 ・営火係・準備係等で最後の後始末を行い，火の気の無いことを確認します （3）機材などの後片付けをします

5　活動上の留意点

・強風の場合は実施できません。

写真１　ボンファイヤーの様子